

The logo of the University of Almería is a circular seal. It features a central sunburst or star-like design with multiple rays emanating from a central point. The rays are stylized and have a wavy, flame-like appearance. Surrounding this central design is a circular border containing the Latin text "IN LUMINE SAPIENTIA" at the top and "UNIVERSITAS ALMERIENSIS" at the bottom, separated by small dots.

アルメリア大学 プログラム

SUSAP 2025

UNIVERSIDAD
DE ALMERÍA

○メンバー紹介



福山倫央 教育学部 3 年

「初海外、初留学ですが、リーダーを務め
させていただきました！最初は飛行機の
乗り換えの方法すら分からなかったの
ですが、他のメンバーに助けてもらいな
がら無事帰路に着くことができました。
みんなありがとう!!」



内田弥夏 農学部 2 年

「バディとさまざまなことを体験し、充
実したスペイン留学でした！」



坂本明日美 教育学部 2 年

「今回の研修で初めてスペインに行きま

した！現地のバディの家に遊びに行っ
たりと毎日とても充実して楽しかった
です！」



前山志帆 教育学部 2 年

「スペインのイメージは情熱的な国！今
回の研修で自分の視野を広げられるよ
うな経験を積みたいです！」



松尾藍香 教育学部 2 年

「目標にしてた大学生のうちに海外に行
って、現地の人と交流することが出来た
ので、とても学びになりました！」



久世桜子 農学部 2年

「バディをはじめ多くの人と交流し、食や文化に触れることで、ますますスペインが好きになりました！」



南村果音 理工学部 3年

「バディや現地の人たちとの交流を通して、楽しみながらしっかりと語学力を磨くことができました！」



塚本明日香 農学部 2年

「好きなスペイン料理はタパスとトルテ
ィーヤ。朝日を見るために海岸を歩いた

のが思い出。素敵な友達がたくさんできた。」



溝口滉歩 教育学部 2年

「以前から留学に興味があり、スペインの街並みや料理にひかれたことから参加を決意。素敵な仲間に恵まれました！」



加茂ひなの 農学部 2年

「何か夢中になって頑張れる事が欲しい
と思い、留学に参加した。この留学を機に
スペイン語を頑張りたいと思う。」



永田こなつ 芸術地域デザイン学部 2年

「今回のスペイン研修では、スペインの言語や文化を学ぶだけでなく、いろいろな人と触れ合い、楽しみながら多くのことを吸収することができ、とても有意義な時間を過ごすことができました！」



野崎瑞喜 経済学部 2 年

「今回副リーダーを務めさせていただきました。最初は不安でしたが、日本では見られないものをたくさん見ることができ、貴重な経験になりました！」



横井雅也 教育学部 2 年

「以前から留学に興味があり、自分の視

野を広げたいと思い参加しました。いろいろな人と交流でき、素晴らしい経験に



なりました。」

田中偉吹 経済学部 2 年

「今回の研修でバディとの交流や授業などを通してたくさんの貴重な経験ができて、とても充実した 2 週間でした！」

プログラム概要

期間：2025 年 2 月 14 日～3 月 3 日

留学先：スペイン アルメリア大学

○授業について

初日は、午前中は、バディと会い、キャンパスツアーに行きました。放課後は、シティツアーが開催されました。毎日 9 時から 14 時まで授業がありました。午前と午後に授業が分かれていて、9 時から 12 時はスペイン語を習いました。12 時から 14 時は、SDGs やスペインの歴史等について学びました。

○大学寮について

留学期間は、大学の寮 *civitas* に滞在しました。様々な国の人が住んでいて、寮で朝ごはん、昼ごはん、夜ご飯を食べたり、パーティーができた、ジムのような運動できる場所もありました。

○バディについて

佐賀大学の学生 1 名につきアルメリア大学の学生 1 名でバディを組み、留学前にメールでやり取りしたり、Whatapp で連絡を取ったりしました。また、留学中はアルメリアを紹介してくれたり、一緒に遊んだりしてくれました。

○スペインについて

人口：約 4800 万人

首都：マドリード

公用語：スペイン語

国土面積：約 50 万 km²

通貨：ユーロ

宗教：カトリック

スペインは、イベリア半島に位置するヨーロッパの国で、豊かな歴史と文化、そして多様な自然環境で知られています。

○アルメリアについて

アルメリアは、スペイン南部のアンダルシア州に位置する美しい都市で、地中海に面しています。この地域は年間を通じて晴天が多いことで知られ、「スペインで最も太陽が輝く場所」とも言われます。

○アルメリア大学

アルメリア大学 (Universidad de Almería) は、スペイン南部のアンダルシア州アルメリアに位置する公立大学で、1993 年に設立されました。この大学は、地域の教育ニーズに応えるために設立され、教育と研究の質を向上させることを目指しています。大学の特徴としては、国際性があり、実践的な教育や研究機会があることだそうです。

「スペイン研修を通して」
教育学部 小中連携教育コース

3年 福山倫央

私は今回スペイン研修に参加した。このプログラムで得たものはとても多く、二度と経験できない価値あるものであったと感じている。今まで自分の中で勇気が出ず、なかなか踏み出せなかった海外研修であったが、自分にとって、とても貴重な体験ができた素晴らしい機会であったと考えている。

私が今回の研修に参加した目的の一つに、日本と他国の違いを知るというものがあった。ここではまず、私が学んだ日本とスペインとの違いについて述べようと思う。

まず1つ目の違いは「生活」である。スペインでは、朝食を朝7時、昼食を14時、夕食を21時くらいに食べており、就寝時間も遅かった。これは日本との大きな違いであり、私の中で変化に対応するのが難しかった点である。また、スペインの人は夜に活動することが多く、朝は11時くらいから動き出す人も多いそう。しかし、コンビニはないので、夜に何か欲しくなってもすぐに入手することは困難であったため、この点においては日本の便利さを身をもって感じる事ができた。

2つ目の違いは「食文化」である。米はほとんどなく、主食はパンであった。朝、昼、夜いつでもパンだけは毎回食べることができた。これは日本でいう、三食米を食べるのと同じなのではないかと考える。

スペインでの学食



また、スペインでは食を大事にする文化が根付いており、昼食の時間は2時間も取ってあった。そのため、学食で食べる人や外食する人、一旦家に帰って食べる人など、様々な人がいた。日本人は毎日ゆとりなく忙しいように感じるため、生活を豊かにする「食」を大事にするスペインの文化はとても良いものだと思った。日本ももっとゆとりを持った生活を目指し、食を大切にすべきではないかと考える。

3つ目の違いは「国民性」である。これは私が最も印象に残った違いである。まずおおらかなで寛容な人が多かった。スペインの人は、知らない人でも目が合ったら微笑みかけてくれる人が多かった。日本では知らない人とは目を合わせないので、微笑みかけられた時は驚いたが、日本より好印象を持たれやすいと考えられるので、この対応はとても良いと感じた。また、初めて会った人でも話しかけたり、一緒に楽しんだりすることもあった。私は寮の学食で多くの人に声を掛けてもらい、仲良くなったり、連絡先を交換し合ったり、誕生日を祝ったりした。人との距離を置きがちな日本人と、誰とでもフレンドリーな海外との差が明確に分かれた出来事であった。





加えて、皆とても優しいが、自分の意見や考えははっきり言うという信念を感じた。様々な場面でスペインの人は、譲ってくれたり助けてくれたりするなど、とても優しい人が多かった。しかし、間違っていることに対しては、はっきりと否定したり、自分の考えを伝えたりしていたように思う。私は、スペイン人の「優しさの中にある強さ」にとっても惹かれた。日本とスペイン、どちらが良いと一概には言えないが、遠慮がちでストレスを溜めやすい日本人もこのような風習になれば、言いたいことが言いやすい世の中になるのではないかと考えた。今回の研修では、このような大きな違いをたくさん発見することができた。これらは実際に海外に赴き、自分の目で見て、耳で聞いて、自分の体や五感で感じなければ分からないことであり、日本という島国の中には絶対に気付けない違いだと私は感じた。また、この研修を経て、言語にも興味を持つことができた。スペインでは、思ったより英語を話せる人が多くなくて、飲食店に行くとスペイン語しか通じないという場面が多々あった。そこで、今回のプログラムの中で学習したスペイン語を日常に混ぜていくことで、スペイン語が通じた時の嬉しさを感じ、言語を学び習得する楽しさを

知ることができた。また、分からない文法や違いなどもバディに聞くと教えてくれたので、バディとの距離を縮めるきっかけともなった。そして、バディと英語で会話することを通して、自分の英語力が足りないことも自覚できた。スペインでは、母国語に加えて英語、第3言語まで学んでいる人が多く、それ以上に多言語を話せる人も多くいた。海外の人の多言語に興味を持ち、積極的に学ぶ姿勢を見て、私も積極的に多言語を学んでいきたいと思った。

このように、私は今回のスペイン研修で主に「日本とスペインの違い」と「他言語を学ぶ意義」を学ぶことができたと感じている。どちらも、教科書や授業で学ぶだけでは決して分からない学びである。この研修は、日本という島国から出て世界に目を向けた時、自分はどれほど小さな世界の中で生きていたかを実感させてくれる良い機会となったと思う。スペインで過ごした2週間はかけがえのない貴重な経験であり、私の視野を広げてくれた良い機会ともなった。私は将来教師になりたいと思っているが、この時体験したことを子供たちに伝え、海外に興味を持ってもらい、子供たちの視野も広げることのできる教師になりたいと思った。今回得たことを糧として、これからの私の人生に生かしていきたい。

バディの人達との見学

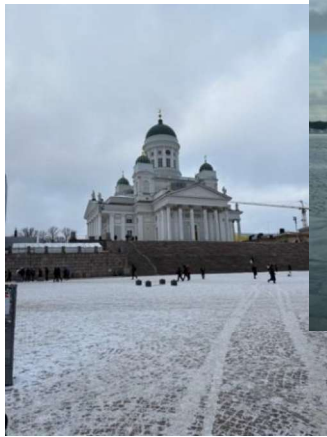


「今回の短期留学を通して」

経済学部 経営学科 2年 野崎瑞喜

私が今回のスペイン研修に参加した動機は、語学力を向上させたいという思いもあったが、一番は私はサッカーが好きでサッカーが盛んなスペインという国にもともと強い関心があったからであった。今回の研修ではたくさんの貴重な経験ができ、自分の視野を広げることができた2週間であった。

まず私たちは羽田からフィンランドのヘルシンキにいき、そこからスペインへ行く予定だったが、まさかのストライキで一日フィンランドに滞在しないといけないというハプニングもあった。しかし、その1日でフィンランドの観光もでき、極寒の国を観光するという貴重な経験をする事ができた。



↑フィンランドの様子

その後、予定より大幅におくれてだったが、無事にスペインに到着することができた。私たちが今回行ったアルメリアはスペインの中で南に位置していてとても暖かく、周りも海でビーチもたくさんあった。バディから教えてもらったことだが、雨は年に数回しか降らず、天気はほとんど晴れだそう

だ。寮での生活で毎日大学まではバス通学をしていた。また、ご飯はバディの人と外食に行くとき以外は寮で出るご飯を食べた。



↑アルメリアのうみと寮のご飯

授業は平日のみで、毎日9時から14時までであった。初日はバディとの交流やキャンパス内のツアーがあった。そこで自分のバディやほかの人のバディなどとたくさん話すことができ、中を深めることができた。2日目からはまずは2時間毎日スペイン語の授業があり、そのあとに持続可能エネルギーについての授業があり、中には実際に大学の中を歩いて設備を見せてもらうものもあった。授業は英語で行われ、自分の英語力のなさや授業を通じてどんどん英語が聞き取れるようになっていっているのを感じた。

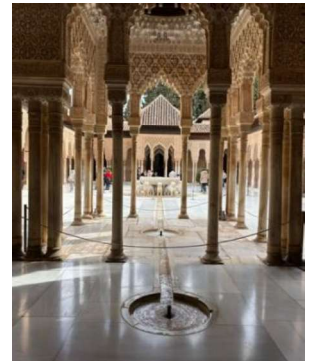
放課後や休日はバディとあって、どこかへ出かけたり、ご飯を食べに行ったりした。出かけるときは、バディにアルメリアのバディのお気に入りの場所やアルメリアの観光地などに連れて行ってもらったりした。バディが観光地などに行くときはそこがど

ういう場所なのかななどを教えてくれたり、
気になることがあったら聞いたりして普通の
旅行の倍楽しむことができた。また、バディ
のお気に入りのレストランに連れて行って
もらったときはバディのおすすめのスペ
イン料理を食べた。スペイン料理は仁保料
理と全然違っていたがどれもとてもおいし
いものだった。また、食事の時や移動の時
お互いの国のことについて話したりして、
バディとの仲を深めるとともに英語力も向
上できたと思う。そして、翻訳機を使わな
ければ伝えられなかった場面もあり、もっと
英語力をつけないといけないという今後の
モチベーションにつながった。



↑バディと食べたスペイン料理の一部
最後の日に行ったグラナダでは世界遺産

のアルハンブラ宮殿を訪れ日本では見るこ
とができない美しい建物を見ることができ
た。宮殿はとても広く、花壇や噴水、石像な
どもあり、まるで昔読んだおとぎ話の世界
に行ったような、不思議な気持ちになると
ともにその美しさに感動した。また、宮殿か
らはグラナダの町などの美しい景色も見
ることができ、日本とは町の建物のつくりや
街の雰囲気も全く違うので、日本で
みられる絶景とは全く異なるものだった。



↑アルハンブラ宮殿とそこから見たグラ
ナダの景色

私は今回の研修を通じてたくさんの貴重
な経験ができた。この貴重で素晴らしい経
験をこれからの私の人生の糧にしていきたい。
また今回痛感した自分の英語力のなさを
少しでも改善できるようにこれからも勉
強に励んでいこうと思う。

「今回の研修を通して」

理工学部 生命化学コース 3年

南村果音

私は今回、アルメリア大学のスペイン語・SDGs 学習プログラムに参加しました。私がこの研修を選んだ理由は、現在日本でも大きな課題となっている、移民問題について興味があったからです。日本は以前、移民や難民に対して厳しい条件を設けていたため、国内に外国人労働者が少ない状態でしたが、現在は少子高齢化の進行や働き手の不足を補うために、移民を受け入れ始めています。しかし、自国では移民の受け入れに慣れていないため、文化や宗教観の違いなどから、移民と地域住民との間で生じた諍いをニュース等で見かけることが多くなりました。そのため、自国よりもはるかに多くの移民の受け入れを積極的に行っている EU の加盟国に行くことで、移民者と地域住人の関わり方を見ることができ、アルメリア大学には様々な国からの留学生を受け入れているため、その環境に身を置くことで、異なる文化背景を持つ人との付き合い方が学べるのではないかと思います。加えて、私はアルメリアの文化にも興味がありました。スペインはイスラム王朝の支配を受けていた歴史があるため、ヨーロッパの国でありながら、イスラム教が根付いている国でもあります。その二つの宗教が共存する地域の文化がどのようなものなのか、実際に自分の目で見てみたいと思い、このプログラムに参加することを決めました。

今回、日本人学生一人につきアルメリア大学側から一人のバディが配属されましたが、その内、学生の半数程は他国出身の生徒でした。実際、私のバディもルーマニア出身者であり、幼い頃にスペインに引っ越ししてきたと話していました。また、私たちが滞在した寮に住む生徒にも他国出身者が複数おり、様々な国の人と交流することができました。その交流を通して思ったのは、異なる文化背景を持つ人と付き合うには、互いの文化背景を学び、尊重することが大切なのではないかと思いました。アルメリア大学の生徒との交流の中で、彼らと私の間で異なる考えを持つことが度々ありました。しかし、彼らは私の考えを否定せず、尊重して接してくれたため、楽しく交流を行うことができました。また、今回交流した学生は、日本文化に興味を持っている人がとても多かったです。彼らが自国とは異なる習慣を持つことに対して興味を示し、日本文化を知ろうとしてくれたことが嬉しかったです。私もスペインの文化に対して彼らに質問をすることが度々あったのですが、その時に「スペインに対して興味を持ってくれて嬉しい」と言われました。

滞在した寮の生徒との写真



他の人のバディとの交流



今回体験したスペインの文化で、より興味深かったのは、食文化でした。高温多湿の日本と違い、スペインのアルメリアでは乾燥した日が多いため、オリーブ類やジャガイモといった、育成にそこまで水が必要ない作物を使った料理が多かったです。しかし、お米を使った料理があったり、魚料理が豊富という点では、日本とも似ていると感じました。私のバディの友達の家に行った時にスペイン料理を作ってもらったのですが、そこで出されたトルティーヤが私の想像と違うもので驚きました。私は薄い生地にはタコライスを含んだものを想像していましたが、出てきたのは分厚い生地にジャガイモや玉ねぎが入った料理でした。スペインでは、トルティーヤはスペイン風オムレツとも呼ばれるようで、最初は驚きましたが、現地の食文化を知れて面白かったです。また、出された料理の中に、クロケッタというものがありましたが、これが日本のコロッケととても良く似ており、日本では中にジャガイモを入れるのが一般的ですが、スペインではホワイトソースや生ハムを入れるのが主流らしく、国の違いを

感じられて興味深かったです。



バディの友達の家で出された料理
その時の写真

私は今回の研修で、旅行では知ることのできないスペインの文化をたくさん体験できたと思っています。特に、現地学生との交流は貴重なことであり、旅行では体験できないため、その機会を得られたことに対して、とても有り難いと思っています。また、アルメリア大学での授業を通して、SDGs や移民問題といったことへの取り組みも学ぶことができたため、よりアルメリアに対する理解を深められたと考えています。アルメリア大学で学んだ知識は日本でも活用できるため、異なる角度で物事を判断する時の材料にしようと考えています。今回の研修は、私の人生の財産になったと思います。参加が叶ったことに、とても感謝をしています。

最終報告

23254015 内田 弥夏

今回の SUSAP スペインでは、大きく分けて、スペイン語や英語での授業、食文化、バディを含めた現地の人との交流について学ぶことができた。このスペイン研修の際に事前に立てたグループ目標は、様々な国の人と交流することであり、個人的な目標として、昨年度 SUSAP 台湾研修に参加した際の経験も踏まえて、スペイン文化の特徴をまとめることを目標とした。

まず、アルメリア大学での授業についてである。アルメリア大学では、9時から授業が始まり、11時までスペイン語、その後、英語でのソーラーパネルや再生可能エネルギー、スペインの歴史や移民についての授業があった。スペイン語に関しては、挨拶から始まり、基本的な文法や数字などを二週間で学んだ。日本での言語学習は、「書いて」覚えることが多かったが、「話して」覚えるという印象が強く日本と勉強方式が違うと感じた。「会話」が授業の中でメインとなっており、徐々にスペイン語での会話が増えて大変だったが面白いと感じ、これから勉強したいと思えるような授業だった。英語での授業に関しては、ソーラーパネルの理論や再生可能エネルギーの講義については内容が難しく専門用語や物理学的な内容が多く、理解が難しかった。授業の中では、ソーラーパネルを研究している施設に行き、実際に発電しているところや制御しているパソコンを見せてもらったり、バイオ資源について、育成や保管している施設、博物館のようにアルメリアの生態系や石材などを保管している施設などを見学したりした。特に、私は農学部で農業について学んでい

るので、アグリ資源に関する施設が興味深く、効率的な培養に必要な条件など専門的なことまで研究している話を聞くことができた。スペインの歴史や移民についての授業では、スペインの成り立ちだけでなく、アルメリアの観光地となっているところや有名店の紹介を混じえながらの歴史や問いかけなどが多くある日本の「受け身」の授業ではなかったことが印象的だった。

次に、食文化についてである。アルメリアは地中海に面しているからか魚料理が多かった。特徴として私が感じたことは主に、食事の時間、果物、タパスである。食事の時間については、朝食は授業が早く、大学と寮の距離も離れていたために日本と変わらない時間帯で取ることが多かったが、昼食と夜食に関しては2時間ほど遅れて食べることが多かった。私たちは主に寮で食事をしてしたが、夜は8時から10時30分までと日本と比べて遅かった。寮での食事に関しては、量が多く、日本のように食べ残してはいけないという文化が薄いのか、食べ残して捨てている人も多く見かけた。この面では、日本の食事文化は素晴らしいと感じた。次に印象に残っていることが、果物が多く出てくることである。日本では、果物は嗜好品としての側面が強く、日常的に食べる人は多くない。しかし、スペインでは、果物の値段が安く、日常的に食事に出てきていた。特にオレンジはよく見かけたこともあり、オレンジのスペイン語である「naranja」はみんなすぐに覚えた程日常的に食べられていた。また、果物がまるまる食事の場に出てきて、ナイフを使い自分たちで切って食べることも多く、新鮮だった。そして、「タパス」である。「タパス」はスペインのお店の形態

で、お酒と料理を楽しむことができる。料理は通常と比べて大きさが小さいためいくつか頼むことが多かった。夜だけでなく昼も開いているお店も多く、お昼からお酒を飲むことも普通に行われていた。私たちの授業が特別なわけではなく、大学の授業は2時頃に終わることが通常のように、お昼からお酒を飲む人も多かった。先にお酒を頼むシステムなため、席につくと同時に「何飲む？」と聞かれることもあり、日本の居酒屋に似ていると感じた。他にも、スペイン料理で有名な「パエリア」なども食べることができた。パエリアは料理の平たい鍋の部分のことを指しており、それが料理の由来となっていることを知り、興味深かった。また、「パエリア」や「チュロス」はスペインの北部と南部で違うらしく、今度機会があれば、その違いも体験したいと思った。

最後に、グループの目標でもあった交流についてである。この研修中ほとんどの自由時間をバディと過ごした。スペインでの言語はスペイン語であり、ほとんどの人は英語が通じないようで、会話ができた人は限られた。しかし、エレベーターやすれ違った際に「Hola」と言うなど日本に比べて親密的な印象はあった。また、寮の管理人の方と話す時に、数字を言う場面で覚えただけのスペイン語で話すと、反応してもらい会話をすることが楽しくなった。バディとの会話は英語で行なっていたが、英語能力が高く、自分が理解できず聞き返すと別の言葉で言い換えてもらうなど、自分の英語能力不足を感じ、今後も勉強しもっと会話が迅速にできるようになりたいと思った。スペインの南部地方は話す速度が速いようで、初めのうちは耳が慣れず聞き取れないことが多くあったが、二週間過ごすうちに英語

の理解度が高まり、内容の理解が速くなったと感じた。

以上のことを踏まえて、このスペイン研修の経験から、自分から関わりに行くことによって、人種や言語を気にせず、友情関係を築くことができると学んだ。英語能力はもちろん大事だが、共通の経験することや活動意欲を持つことが友情関係を築く第一歩として大切であると感じた。積極的に自分からまず関わり、チャンスを逃さないように行動していきたいと思う。



スペイン研修

2341044 経済学部経済学科

田中 伊吹

はじめに

今回、私は長期留学に向けた下見として、スペイン短期留学プログラムに参加した。これまでに台湾やスリランカでの短期研修や国際交流を経験してきたが、ヨーロッパへの渡航は初めてであり、新しい文化や環境に触れる貴重な機会となった。この短期留学の目的は、将来的なスペインでの長期留学をより実りあるものにするため、現地の大学や生活環境を自分の目で確かめることだった。また、事前にスペインの人々の雰囲気や文化、食、交通事情などに触れることで、長期滞在の準備を具体化することも大きな目的の一つだった。

現地での経験

大学・授業の様子

現地の大学では、国際交流に積極的な雰囲気が印象的だった。先生や学生たちはとてもフレンドリーで、言語の壁があっても積極的に話しかけてくれた。スペイン語や持続可能性に関する講義も興味深く、スペイン社会が観光とどのように関わっているのかを知ることができた。

また、キャンパスの雰囲気も自分の想像とは異なっていた。開放的でゆとりとした空間が広がっており、学生たちはカフェテリアや中庭で自由に過ごしていた。将来ここで学ぶ自分の姿をイメージすることで、より留学への意欲が高まった。

文化と生活

スペインの食文化はとても豊かで、タパスやパエリアといった地元の料理を楽しむことができた。また、昼と夜の時間の感覚が日本とは大きく異なり、特にシエスタ（昼休憩）やディナーの時間の遅さには驚かされた。これはスペイン独自のライフスタイルであり、実際に体験してみなければ分からなかった点だった。

想定外のトラブルとその対応

今回の渡航では、予想外の出来事もあった。フィンランドからスペインへの乗り継ぎ便がキャンセルされ、一日フィンランドに滞在することになった。このようなトラブルは台湾でも経験しており、過去の経験を活かして冷静に対応することができた。

このような突発的な出来事も、海外生活では避けられない。むしろそれをどう乗り越えるかが重要であり、今回の経験は将来の長期留学への大きな準備となった。

今回の短期留学を通じて得たこと

今回の短期留学を通じて、スペインという国を「観光客」としてではなく、「これから生活する場所」として見る視点を得ることができた。気候や文化、生活スタイルだけでなく、大学の雰囲気や授業内容、現地の人々との交流を通じて、自分がここで学び、生活するイメージがより現実的になった。

また、異文化に対する柔軟性や、予期せぬトラブルに対する冷静な対応力も身についた。このような力は、単に留学に限らず、将来国際的な場で活躍するために不可欠なものであると感じている。

おわりに、今回のスペイン短期留学は、私にとって「下見」を超えた多くの学びを与えてくれた。現地の文化、教育、生活の中に実際に身を置くことで、長期留学へのモチベーションが一層高まった。

将来的には、今回の経験を活かし、スペインで観光学を深く学び、持続可能な観光の在り方を追究していきたい。そして、その知見を日本の観光政策や地域活性化に役立てていくことが私の目標である。



「SUSAP スペイン研修を振り返って」

教育学部 2 年 前山志帆

今回私が参加したプログラムはアルメリア大学の語学研修である。私がこの語学研修に参加した動機は自分の英語力をあげたかったということと自分の視野を広げたいと考えたからである。特に日本にいただけでは得ることができない考えや価値観を知り、自分の視野を広げることで、今後に活用できるような文献を広めていきたいと考えた。

アルメリア大学では平日は 9 時から 14 時まで 5 時間授業が行われ、最初の 2 時間はスペイン語の授業、残り 3 時間はヨーロッパやスペイン、アルメリア地域の SDGs についての授業が展開された。スペイン語の授業は生徒主体の授業展開であり、積極的にスペイン語を使いながら学ぶことができた。実際、街へ買い物に行った際に言っていることが少しわかったり、バディ同士のスペイン語を少し理解できたりと自分のスペイン語の向上を実感することができた。アルメリア地域の SDGs の授業では実際にアルメリア大学の施設を周り、より直接的に学ぶことができた。内容はとても難しかったが理解できた部分も少しはあったので新たな知見を得ることができたと考える。

授業後や休日にはバディとご飯を食べに行ったり、ショッピングや観光をしたりした。特に印象に残っているのはカボデガタに行ったことである。私たちの調べ不足で普通は車で行くものだということを知らず、往復約 4 時間斜面を歩いた。ものすごく疲れたが一緒に行った友

達と助け合いながらまた色々な話をしながら歩いたので非常に印象に残っている。ショッピングでは店員さんにおすすめのワインやものの場所を尋ねたり、現地の人とコミュニケーションを取ったりすることができた。最初はものすごく緊張したが翻訳機を使いながら自分の意思を伝えて、それが伝わった時はものすごく嬉しかった。このような経験は中々できないので貴重な経験をすることができたと考える。観光やショッピングをする際にはバスを多く利用したが、当初バスの降り方がわからず困っているとジェスチャーで降り方を教えてくださり、降りるところまで見守ってくれる方がいた。バスだけでなく会計の時にも困っていると教えてくださる方が多くいた。スペインの人の温かさを直に感じることもできた。

今回のスペイン研修ではスペインの人々の価値観や考えに多く触れることができ、そして日本では感じることもできない「自分が外国人だという感覚」を味わうことができた。この経験を通して、今回の研修の目標であった自分の視野を広げることができた。特に自分の持っていた先入観を崩すことができたと考える。また今回の研修では多くの人に助けられた。言語が分からない土地では困ることが多くあるので、困難に直面している外国人を見かけた際には積極的に助けようと思った。そのためにももっと英語の勉強をはじめ、様々な言語を学ぶことが必要だと考えた。

今回の留学を通じて、私の自己成長とスキルの向上を実感している。今後も留学で学んだことを忘れず、生かしていきたいと考える。



スペイン語を教えていただいた教授との写真

SUSUP スペインプログラム 成果報告書

23101230 教育学部 2年 坂本明日美

今回のスペインの短期留学のプログラムで、自分の中で何でも自分から挑戦するということを目標としていました。その目標を達成するために、バディーとの交流を自分から積極的にとるようにしました。スペインに行く前に予めしていたやり取りと違い、実際に会ったときはとても緊張しました。スペインに行く前のやり取りでは自分の英語を自分で客観的にみることができ、さらにはメッセージのため相手から送られてきたら少し考えて返事をすることができます。しかし、実際の会話となると自分が何を話したいのか、その内容を話すためにどういうふうな言い回しをしたら良いのかと次々に問題が起こってきます。初めて英語でバディーと話した時はあまり自分の伝えたいことが伝わっていないと感じました。わたしは普段は結構話すことが好きな方なので、自分の話したいことが話せないということにはとても歯痒さを感じました。だからこそ、バディーともっと話せるようになるということが最初の私の目標でした。「もし時間があるなら、会いたい」と毎日のように連絡を取り合って会いました。2人で日本料理とスペイン料理をお互いに料理したり、おいしいタパスがあるお店に連れて行ってもらったり、ビーチに日没を見に行ったりと、とても充実した時間を共に過ごしました。食事の際にはお互いの家族のことや、好きなアニメや漫画のこと、友達のことなどたくさんのかんことを話しました。たくさんのかん

間を共に過ごしたおかげか、地元の友達と話すように本当に楽しく話することができるようになりました。そして、文法や発音よりも相手に伝えたいという気持ちが大切だと思いました。相手に伝えたいという気持ちがあれば身振り手振りや表情など、様々な方法で伝えることができます。その熱意があれば相手も頑張ってくれと感じました。

学校では午前中は英語でスペイン語を学び、午後からは英語でSDGsについて学びました。その中でもスペイン語の授業はとても印象に残っています。先生は1から丁寧にスペイン語を教えてくれました。初めは理解が難しく、授業についていくことで精一杯でしたが、慣れてくると楽しさを感じました。1から新しい言語を学ぶことの楽しさを改めて知りました。プログラムのみんなでスペイン語を「こういうことじゃない？」と教え合うことも楽しかったです。

スペインは日本とは文化が全然違っていて驚くことが多くありました。毎日、多くの新たな発見をするので1日があっという間でした。バディーとたくさん話し、いろんなところに連れて行ってもらったことで、私はスペインが好きになりました。いつか、私がスペインを好きになったように、バディーにも日本を案内して日本のことももっと好きになってもらいたいです。とても自分にとって実りのある経験となりました。こんな素晴らしい体験をさせてくれたバディーや両親には感謝しかないです。ありがとうございました。



↳タパス



←ビーチで日没鑑賞



↳バディーと一緒に料理



←スペイン語の先生との記念撮影

「二週間のスペイン研修を通して」

農学部二年 加茂ひなの

私はこの SUSAP 研修が人生初めての海外渡航だった。参加した目的は、自分の英語力がどれくらいか知ると、日本との違いを直に感じたいと思ったからだ。また周りが何かに挑戦し頑張っている中、何も動かずじっとしている自分が恥ずかしくなり、何か行動を起こしたいと思ったからだ。

今回の研修で私は多くのトラブルに巻き込まれながらも、素敵な出会いに恵まれ、人生で一番濃い二週間を過ごしたと思う。このスペイン研修で感じたことを【アルメリア大学】【勉強】【生活面】【ボディとの交流】の四つの項目に分けてまとめたいと思う。

まず【アルメリア大学】についてだ。アルメリア大学は地中海に面しており、海風を感じることができる自然豊かな大学だった。スペインは再生可能エネルギーの導入が積極的に進められているため、太陽光パネルを大学内に多く設置しており、佐賀大学と大きく景観が異なっていたと感じた。また学内に PHN という自然歴史博物館があり、アルメリアの生態系について触れることができた。見たことのないような動物が多く展示されており、気候の違いでこんなにも生態系に違いがでるのだと驚いた。大学内だけでも多くの違いがあり、見渡しながら歩くのがとても楽しかった。

次に【勉強面】についてだ。私は今まで日常会話で英語を使う経験がなく、今回

が初めての経験であった。現地の生徒と英語で会話をした際、言いたい内容を日本語ではパッと思いつくのに、それを表す単語や表現がわからず、戸惑うことが多くあった。また相手の話す内容が上手く聞き取れず、聞き返したり、首を傾げたりすることがあった。自分の英語力の無さを感じ、もっと単語力を上げなければと留学してすぐ落ち込んだ。そこで隙間時間に会話ネタを考えたり、英語で日記を書いたり、英語力を上げようと取り組んだ。徐々に現地の方々と会話が弾むようになり、不安な気持ちを振り切ることができたと思う。また現地の方々の優しさにも助けられたと思う。私がある単語の意味や表現がわからなかったとき、簡単な英語に変えて話してくれたり、翻訳機を手を取ってくれたり、丁寧に教えてくれた。そのような優しさのおかげで私は何とか乗り切れたと思う。

大学の授業では主に英語でスペイン語やスペインの再生可能エネルギー、歴史について学んだ。特に記憶に残っているのがスペイン語の授業だった。授業では挨拶や自己紹介、数字などを学んだ。アルファベットの読み方が英語と違うなど、最初覚えるのが難しかった。しかし授業を重ねるたびにスペイン語を読めるようになるのが楽しく、現地の人々と話す際にも簡単なスペイン語を交えながら話することができるようになった。拙いスペイン語でも理解してもらえるのが嬉しく、新しいことを習得することはこんなにも新鮮で楽しいことなのだと久々に感じることもできたような気がする。大学生に

なってからは高校生の内容の発展を学ぶのがほとんどであり、全く新しいものを学ぶことがなかったので、スペイン語を学ぶことはとても良い経験になった。日本に戻ってもスペイン語の学習を続けたいと思った。そしていつかスペインやスペイン語圏の国を訪れる際にスペイン語を話すことができたらいいなと思った。

大学の最後の授業では先生がピクニックに連れて行ってくれ、外でお菓子を食べながら話した。現地の先生方は皆優しくとても心温かく、人情深い人ばかりだった。そしてユーモアに溢れており、退屈なく、どの授業を楽しかった。ただの旅行では海外の大学に入って授業を受ける経験は出来ないので、SUSAP に参加し、海外での大学の生活を体験することが出来て本当に良かったと思った。

次に【生活面】についてだ。まず私がスペインに来て驚いたのが生活の時間の違いである。朝の始まりの時間は日本とそれほど違いはなかったが、お昼ご飯の時間が 14 時～15 時であり、そして夜ご飯の時間も遅く 20 時～22 時だった。遅い時間から活発に行動するため、就寝時間も日本と比べ遅く感じた。また大学の授業もかなり遅い時間まで開講されており、スペインに住む人々は夜型であると思った。

またスペインにはタパスという文化がある。アンダルシア発祥で飲み物とともに提供されるおつまみのことを指し、スペインには多くのバーがあった。そのため平日でも昼からお酒を飲む人が多く、お酒は普段の生活と密接な関係にあると

感じた。

スペインの生活に対応するため多少体に負担はあったが体調を崩すことなく過ごせたと思う。この二週間という期間で多くのスペインの文化を感じることができ、新たな価値観を発見することが出来たと思う。そして自国の文化を客観的に捉え、両国のそれぞれの良さについて考えることができた。この短期留学で異文化を実際に触れることの重要さに気づき、他の国の文化についても興味を持った。世界にはまだまだ自分の知らない文化が溢れているのでこの経験を活かして視野を広く持ち、より世界に目を向けていきたいなと思った。

最期に【バディとの交流】についてだ。アルメリア大学プログラムの初日にバディとの顔合わせがあった。しかし私のバディは忙しく大学が提供するプログラムの授業で会うことが出来なかったため、個人で連絡を取り交流した。一度しか交流の機会がなかったが、バディはアルメリアの観光地に連れて行ってくれ、素敵な景色をみせてくれた。私が訪れた場所はカボ・デ・ガタであり今まで見た海の中で一番綺麗であった。海は透き通っており、風も気持ちよく、絶対に忘れられない思い出となった。そしてバディはとても親切であり、スペインの生活、言語について教えてくれた。バディとの交流で積極的なコミュニケーションの重要性を学び、またそれを通して人の優しさにより触れることが出来たと思う。

この研修は沢山の素敵な出会いに恵まれ、多くの経験をし、人生で一番濃い二週

間になったと思う。現地で触れた文化や、人々の心の温かさを忘れず、今後更に異文化理解を深め、自己を見つめ直すことで、更に人間的成長をしたいと思う。



「スペイン研修で自分が学んだこと」

23101258 松尾藍香

- 1, スペイン研修に参加した理由は主に日本にいただけでは学べない価値観や文化を学んだり、英語力を伸ばしたりするために参加したいと考えました。また、この経験を様々な人に伝え、誰かの刺激や発見になると良いと考えました。
- 2, アルメリア大学では、9時から14時まで、スペイン語とSDGsについて学びました。
私はスペイン語を学ぶことは初めてだったのですが、先生が丁寧に分かりやすく教えてくださりスペイン語を習得することができました。SDGsについて学びました。再生可能エネルギーや太陽資源について学んだり、Ciesol ビル施設に訪問したり、PHNを訪問し、持続可能なライフスタイルについて学んだり、スペインの歴史や移民、異文化について学びました。
- 3, スペイン研修を終えて、感じたことは主に5つあります。1つ目は、英語をもっと話して、会話を流暢にできるようにしたかったことです。普段英語で話すことが少ないので、変な英語を言っていないか等、自分の英語に自信がなくて、英語を話すことに抵抗がありました。また、現地の人は何を言っているのか聞き取れなかったり、理解できなかったりすることがありました。間違いを恥ずか

しいと思わず、英語を積極的に話すことを行うことが大切だと感じました。約2週間、初めは、自分から英語で話しかけに行くことができなかったけれど、友達に背中を押してもらって、途中から英語で自分から話しかけに行くことができ、英語で話すことへの抵抗は減りました。しかし、相手の方の言葉が分からなかったり、英語の発音が違うため、聞き取りにくかったりしたので、もっと知識を増やして、色んな人とコミュニケーションを取れるようになりたいと感じました。2つ目は、日本とスペインの生活様式の違いを感じました。まず1つ目は、挨拶の方法です。日本の挨拶は、お辞儀をしたり、手を振ったりします。その一方で、スペインの挨拶は、ハグをして、両頬にエアキスをしたり、ハイタッチをしたりして挨拶をしていました。初めに見た時は驚きました。しかし、挨拶の仕方は今までの常識を覆し、ハグをすることで親近感がわくことを感じました。また、スペインでは、夕方になったら、散歩や運動をしたり、日曜日には、お店が閉まっていたりしました。日本では、運動する習慣がなく、夕方ゆっくり過ごしている大人の人は少ないと感じています。このように日本にない習慣や生活を感じることができました。3つ目は、日本では、日々守られていることを感じました。スペインでは、スペイン語や英語が完璧ではない状態で留学し、言語や常識

を知らないので、バディや現地の人々の助けがないと生活することが難しいと感じました。また、日本では、今まで仲良くしてくれたり、お世話してくれたりした人々がいるので、周りの人に助けを求めることができたのですが、周りに言葉も通じにくい知らない人が多かったので、不安はありました。しかし、不安だから、どうにかして自分ができる表現をして、相手の人にコミュニケーションを取ろうと様々なコミュニケーション方法を考えて、頑張ることができました。4つ目は、スペインの料理はおいしく、日本の味に似ていると感じました。日本の和食のような落ち着いた味は少ないのですが、甘すぎたり、脂っこすぎたりしすぎず食べやすかったです。スペインの料理がおいしいと感じるのは、日本とスペインには食文化でなにかつながりがあるのかなと感じ、これから調べてみたいです。5つ目は、現地の人は、NO problem と言ってくれることが多く、どんなに失敗して、迷惑をかけても、大丈夫と言ってくれて、同い年に見えないぐらい、心に余裕がある人が多かった感じがしました。また、人とのつながりや友達を大切にされていて、とても温かい人が多いです。

- 4, 今後この経験から活かしたいことは主に3つあります。1つ目は、海外の人と交流する機会に積極的に参加することです。感じたことでも述

べたのですが、英語をもっと話したり、聞き取ったりすることができたら、よりコミュニケーションをとることができると感じたので、より円滑にコミュニケーションを行えるようになりたいです。2つ目は、他の国に行ったり、他の国の人と関わったりして、他の価値観を学びたいです。実際に海外に行って、日本以外の価値観を学ぶことができ、沢山学びがあったので、自分の人生を充実させるためにも様々な価値観を学び、自分の中の常識を覆していきたいです。3つ目は、将来、色んな人に海外での経験を話したり、今回できた繋がりを活かして、実際に海外交流をするような状況を作ったり、人に刺激や発見を与えることができる人になりたいです。私は、小学校の教師になりたいと考えているので、もし、学校の先生になったら、今回つながった現地の人とオンライン会話のように英語やスペイン語で交流ができれば子供の新たな気づきを生むことができると考えています。また、日本とは違う価値観の異文化を伝え、理解することにつながると考えています。



料理を教えてもらった



←パエリア



↳スペイン語の先生との写真

「スペインへの留学」

23101265 溝口滉歩

今回の留学は貴重な経験が数多くあった。その中でも特に心に残ったことを3つ紹介したい。

1つ目は言語についてだ。今回が初めての留学であった私にとって、今まで英語を使う機会といえば学校の授業や資格試験等ほとんど日本人相手だけだったため、出発前は期待よりも不安の方が大きかった。しかし、自分の知っている簡単な英語でも現地の人と会話出来たときはものすごい嬉しさと感じたとともに、英語を学ぶことで世界中の人と関われる喜びを知り、以前よりも英語学習へのモチベーションが高まった。

2つ目は、海外の印象についてだ。留学を終えた今でこそ感じるものだが、私は海外の人に対して偏見を持っていた。今までの自分の感覚では、海外と言えば物騒な事件、自分とは大きく異なる顔立ち、聞きなれない言葉をものすごいスピードで話す人、これらに対し無意識に怯えていた。しかし、私の偏見とは裏腹に、実際に関わった現地の人には自分の拙い英語でも意図を汲み取って会話しようとしてくれたり、私の分からない言葉に対して多様なジェスチャーを使ったりして分かりやすく表現してくれた。さらに友人が大事なカード類を夜道で紛失してしまった時はバディ達も一緒になって探してくれたり、部屋の鍵が上手く使えなくて困っていたときは、たまたま近くを通った人がスペイン語が分からない私に対してジ

ェスチャーを使いながら対処方法を教え助けてくれたりした。これらの経験から海外へのイメージが大きく変わった。

3つ目は、日本文化についてだ。今回飛行機の関係でフィンランド、デンマーク、スペインの3か国に行く機会があったがどの国でも想像以上に日本文化が受け入れられていた。空港や町中には日本食を提供する飲食店、日本語で書かれた看板、日本発祥のアニメキャラクターの洋服を着た人がたくさんいた。さらに、町を歩いていると私たちが日本人だと気づいた人が「自分たちは日本の文化やアニメが大好きだ」と伝えてくれたり、バディ達を含む大学生の中に日本語を話せる人がたくさんいたりした。そこで、なぜ日本語を学ぶのかを聞いてみると、日本のアニメが好きでいつか日本に行ってみたいからとたくさんの人が話してくれた。日本から出たことで日本文化の良さ・アニメのすごさを改めて感じた。

今回の研修を通して、挑戦することの大切さを学んだ。以前から留学に興味があったものの勇気が出ずになかなか踏み切れなかったが、今回学んだこと・最高の仲間と友人に出会えたことを通して、1歩踏み出してみても本当に良かったと感じる。この経験は一生忘れられないものになっただろう。今後も語学の勉強を続け何事にも前向きに挑戦していきたい。



スペイン研修を通じて得た学びと成長

23254042 農学部 2 年 久世桜子

私はスペイン研修に参加し、異文化や現地の人と触れ合うことで、これまでにない貴重な経験を得ることが出来ました。初めてのヨーロッパ渡航ということもあり、言語の壁や現地の生活習慣にうまく適応できるか不安もありましたが、最終日にはもっとこの地で過ごしたいと思えるほどスペインが好きになっていました。約 2 週間のプログラムでしたが、様々な発見があり、毎日とても充実していました。

現地に到着すると、気温は 20℃前後で、長袖に羽織るものがあれば快適に過ごせました。朝晩は冷えますが、日中は日差しが強く暖かったため、気温調節がしやすい服装で行って良かったです。公用語はスペイン語で、看板などの文字が読めず戸惑う場面もありましたが、現地の人々は親しみやすく、徐々に慣れることが出来ました。観光地では英語を使える場面が多く、英語のスキルがどこへ行っても役に立つことを実感しました。

私たちが訪れたアルメリアでは、移動手段のほとんどが歩きかバスでした。バディやその家族の車に乗せてもらうこともあり、スペインの音楽をリクエストしてドライブを楽しんだことも良い思い出です。また、スペインには美しい建築物や綺麗なビーチが多く、美味しい料理も日本人の口に合うという印象が強く残りました。自然から都市の街並みまで、スぺ

インの魅力を実分に感じる事が出来ました。徒歩で 30 分程度の距離であれば普通に歩くことが多く、平均 15,000 歩ほど歩いてました。

授業は 9 時から 14 時まで受講し、その後昼食をとるというスケジュールでした。そのため普段朝食をとらない人も早く起きて朝食をしっかり食べて通学していました。寮の食堂の利用費は研修費用に含まれており、「美味しいスペイン料理が無料で食べられる！」と私たちは喜んで利用していました。

午前中のスペイン語の授業では、初心者でも基礎から理解できるように進めてくれたため、自信のない人でも安心して参加できました。「私も」という意味の“también”や「少し」という意味の“un poco”、「とても良い」という意味の“muy bien”などは私たちも日常でよく使っていたのでお気に入りの言葉になりました。午後は SDGs に関する授業を英語で受けました。少し難しかったですが、語学力向上だけでなく、社会課題について考える貴重な機会となりました。

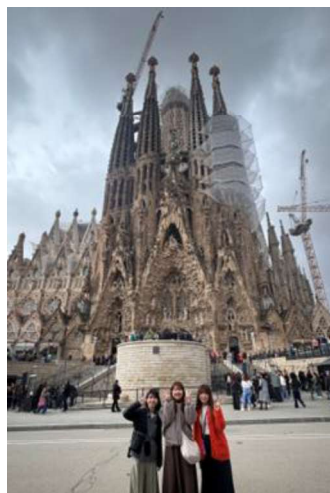
授業が終わると自由時間になり、昼食をとった後は、バディと過ごしたり、街を散策したり、カフェで現地の人々の様子を観察したりして、それぞれスペインについて深く知ることができました。金曜日は特別スケジュールが組まれており、1 週目は折り紙教室、2 週目はグラナダのアルハンブラ宮殿を見学しました。授業の一環としてバディや現地の人々と交流する機会が多く、スペインの文化や歴史に直接触れることができました。特にアル

ハンブラ宮殿の建築や歴史は印象的で、スペインの奥深さを感じられました。

土日は休みだったので観光地を巡ったり、バディの実家を訪れたりしました。私は金曜日の夕方の便でバルセロナへ行き、世界遺産やガウディの建築物を鑑賞しました。本場でパエリアを食べたり、乗り方の分からない電車で挑戦したりと、刺激的な旅になりました。バディの家は寮から30分ほど離れた場所にあり、大切な思い出を作りたい、と様々な所へ連れて行ってくれました。まず、典型的なスペインの朝食であるチュロスをご馳走してくれました。日本のチュロスとは異なり、太くて甘くないのが特徴で、チョコレートにディップして食べるのが一般的なのだそうです。また、私が農学部ということで、親戚が所有する広大なビニールハウスを見学させてくれました。その後も闘牛場や伝統のある博物館を案内してもらい、スペインに関する理解を一気に深めることができました。バディの家族と過ごす中で、スペインでは家族の絆がとても大切にされていることを実感しました。週末には家族が集まって過ごすことが多く、祖父母や親戚とのつながりも強いと感じました。実際、プログラム中に「家族

と会わなくて平気なのか?」「電話はしているのか?」と尋ねられ、毎日連絡を取らないと答えるととても驚かれました。その後、実家の家族とビデオ通話をし、家族同士で交流を楽しみました。

今回の研修を通じて、語学力の向上だけでなく、自分の価値観が広がる経験ができたと思います。もちろん、不安や緊張もありましたが、それ以上に学びや発見が多く、この研修に参加して本当に良かったと心から感じています。もし参加していなければ、今後スペインを学ぼうとは思わなかったかもしれません。アルメリアでの生活を通して、多くの出会いがあり、異なる文化や価値観に触れることで、自分自身の視野も大きく広がりました。さらに、スペインの美味しい料理を味わい、その土地ならではの風習や習慣を肌で感じる事ができ、とても充実した時間を過ごせました。支えてくれたメンバー、先生、家族に深く感謝をし、今回の経験を活かしながら、今後も積極的に海外の文化や言語に触れ、さらに国際的な視野を広げていきたいと思っています。



成果報告書

～スペイン研修を振り返って～

スペイン研修グループ A

芸術地域デザイン学部 2 年 永田こなつ

私は、2月14日から3月3日の18日間、スペイン研修に行きました。参加した目的としては、自分のスピーキング力を試したい、ヨーロッパの文化に触れたいと思うようになったのがきっかけです。もちろん楽しいこと、嬉しいことがいっぱいありましたが、苦労したこと、難しかったこともありました。

私たちが行ったアルメリアは、とてもどこかで心地よく落ち着いた街でした。自然豊かで大学や街で出会う人たちも人柄がよく、比較的過ごしやすかったです。初めて大学に行ったとき、バディのカトリーナが優しく迎え入れてくれ、安心したのを覚えています。友達のように仲良く話しかけることができるのかと不安に思っていたのですが、カトリーナをはじめ、他のバディや先生たちと私が思っていた以上に会話をすることができました。特に印象に残っているのは、みんなでタパスと食べに行ったときに、日本人の友達がバディとの意思疎通に苦戦しているのを見て私が代わりに英語で伝えるという場面がありました。その際に、そのバディから「こなつが翻訳してくれるからありがたい」と言われたことが、嬉しくて確実に今後の自信につながったと感じました。このように現地でしか味わうことのできない些細な出来事一つ一つにありがたさを実感することができ、本当に良い経験ができたと思います。

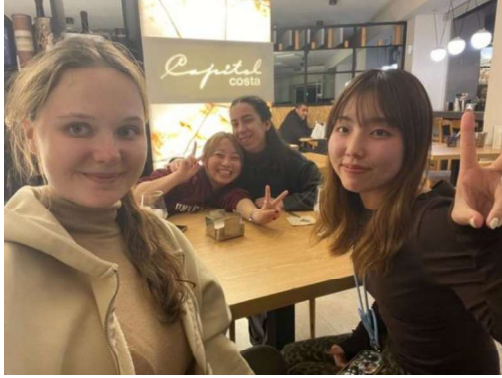
一方で、スペインで生活をする中で少し

驚いたこととしては、英語を話すことができる人が思っていたより少ないということです。大学の中で道を尋ねると、スペイン語混じりの英語が返ってきたり、お店で買い物をするとき、店員が全く英語を話すことができなかったり、スペイン語を話すことが絶対必要条件であるというシチュエーションがかなりありました。英語をある程度話すことができたなら大丈夫という先入観から研修前にあまりスペイン語の勉強をしなかったことが反省点です。研修中にスペイン語を学び、日常的な挨拶や買い物をするときの決まり文句などは理解することができるようになりましたが、もっと勉強していれば、もっといろいろな人たちと会話を楽しんだり、いろんな場所に行ったりすることができたのではないかと少し後悔しています。しかし、スペイン語をスペインで学んだことで、ネイティブの友達から指摘してもらうことができ、楽しく勉強することができました。また、スペインの言語だけではなく、食べ物や音楽、歴史などさまざまな文化を実際に体験しながら学ぶことができました。



今回のスペイン研修では、1日1日が有意義なもので、どの日も欠かすことのできない大切な日々でした。あまり自信がなかった英語も自分の可能性の一部としてあげる

ことができるようになった気がします。まだ今までに経験したことのないことに怖がらずに挑戦し、いろんなことを学んでいきたいです。



スペインで学んだこと

塚本明日香

私は、昨年は台湾に短期留学し、異文化を体験する楽しさや、自分の価値観を広げる重要性を実感した。今回はさらに視野を広げるために、スペインのアルメリアに留学し、スペイン語の基礎を学ぶとともに、太陽光発電や地球温暖化についての授業を受けた。短期留学中に学んだことや経験したことについてまとめる。

1.授業について

授業では、スペインの歴史やスペイン語、環境問題や太陽光発電について学んだ。

アルメリアはスペイン南部に位置し、降水量が非常に少ないことで知られている。この気候特性を生かし、太陽光発電が盛んに行われており、持続可能なエネルギーについて学ぶには最適な環境だった。

アルメリアは年間を通じて日照時間が長く、降水量が少ないため、太陽光発電が非常に発達している。特に、大学のキャンパス内には数多くのソーラーパネルが設置されており、それらがどのようにエネルギー供給に活用されているのかを詳しく学ぶことができた。また、研究施設の見学では、太陽光発電の技術や、効率的なエネルギー変換システムについて説明を受けた。

スペイン語の授業の先生はとても気さくで、授業の中でゲームや会話を取り入れながら、単語や文法を学ぶことができた。特に、数字の数え方や自己紹介、簡単な注文の仕方など、日常生活に必要な表

現を重点的に学んだ。学んだあとにカフェなどで周囲の会話に耳を傾けると、授業で学んだ単語が聞きとれることがあり、わずかだが内容を理解できるようになったことを実感した。また、グラナダを訪れたツアーの際には、バスから見える周りの景色について、雲や山、道路、植物の種類、色などに関係する単語や発音、文法をバディから2時間教えてもらった。実際の風景と結びつけながら学ぶことで、語彙や表現が印象に残り、理解が深まった。

2.交流について

留学中、バディの家族とも多くの時間を過ごした。バディの実家やおばあさんの家、おばさんの家にお邪魔し、スペインの家庭料理をご馳走してもらったり、レシピを教えてもらったりした。

バディの家族はとても温かく迎えてくれ、文化の違いについても色々教えてくれた。例えば、スペインでは食事の時間が日本より遅く、昼食は14時ごろ、夕食は21時ごろが一般的だった。最初は慣れなかったが、次第にスペインの生活リズムに適應できるようになった。

また、バディのおばあさんは農家を営んでおり、トマトやオリーブを育てていた。私が農学部学生であることを知るとビニールハウスの中を見せてくれた。また、トマトやオリーブ、フルーツ、おやつなどをたくさん分けてもらい、スペインの食文化をより深く知ることができた。

3.まとめ

今回のスペイン留学を通して、太陽光発電や地球温暖化に関する知識を深め

ることができた。また、スペイン語の基礎を学び、バディとの交流を通じてより実践的な会話力を身につけることができた。

バディやその家族との交流では、スペインの文化や食事、生活習慣について学び、新しい価値観を得ることができた。特に、家庭料理を教えてもらったり、食事の時間を共有したりすることで、スペインならではの食文化や家族の温かさを体験できたことは貴重な経験だった。

この経験を活かし、今後もスペイン語の勉強を続けるとともに、環境問題についての知識を深めていきたい。また、異文化交流の重要性を再認識し、将来的に国際的視野を持った研究や活動に取り組みたいと考えている。



『スペイン研修を通じて』

教育学部 小中連携コース 横井雅也

私が今回の留学で最も興味があったのは全く別の世界で生きている(外国)人の価値観を理解することである。

その中で、スペイン留学で得たことは数多くある。その中でも特筆すべきことは3つだ。

1. 日常生活における文化の違い
2. その人を構成している価値観の違い
3. 私自身の考えの変化

1. 日常生活における文化の違いにおいて私が一番衝撃を受けたのは、インドアの人が少ないことだ。スペインにはコンビニはなく、ご飯を購入するためにはスーパーかお店(日本のようなチェーンではなく個人経営の)に入らなくてはならない。スーパーは比較的早めに閉まるため、多くの人が夜ご飯を食べに行き、お酒を飲む。もちろん明日の朝仕事があってもだ。また、健康志向の人が多く夕方ごろには公園で筋トレをする人や、ランニングしている人が数多くいた。これはおそらく、日本とは働くという概念が違うからだろう。留学中の授業でさえ先生の気分によってシエスタを取ったりする。とても自由であり、日本では考えられない。

2. 私はこの留学で常にスペインにいるバディと話していた。そこで価値観の違いを大きく感じた。私のバディであるゴンサロとは、お互いの好きなサッカーの話から、近代における少子化問題、そこか

らくる社会保障制度、政治問題など深い話をした。私はそこで居心地がいいなと感じた。その一番の要因は、ゴンサロが自分自身の意見を「こう思う」と断定してくれたことだ。私は、幼少期にサウジアラビアにおり、ホストファミリーも経験し、日本人特有の意見を隠すことがずっと苦手であった。思ったことを口にし、私の意見を聞きさらに反論する。という一連の流れはとても気持ちがよかった。このよう、嫌味がなく対話ができたのは、英語は「Yes」「No」で表現区別をし、逆に、日本語は「曖昧さ」を根本におき、その背景にある思惑を推定することが大切となるからである。京都弁がよい例だろう。ゴンサロ以外のイニャキやマリア、ホルヘ、クラウディアなどほかのバディも同様のことが言える。

3. 私はこの経験を通して、全く別の世界で生きている(外国)人の価値観を理解することが少しはできた。日本とは別の文化であり、価値観も違う人であったが笑顔は大切だし、ありがとうの一言などコミュニケーションにおける根本は等しく変わらなかった。最初、私は必要以上に警戒をして、別のものだと思っていたが、人間は皆等しく平等であるという意味をやっと理解でき、多くの人と会話を重ねた。なんと、留学最後にはこの期間中に一番多くの人と話し、友達を作ることができた。これは私が大きく成長できた決定的な証拠でもあり自信にもつながった。私は人と話すことが好きで、多くの人の価値観や文化的背景を知り対話したい。ヨーロッパという日本とは全

く違う国の人との対話の経験はかけがえのないものとなった。自分は教師となりこれから先、担任となる。そこでこの経験、さらにこれからの経験を得て、未来の生徒に世界の広さ、様々な価値観、多くの面白い人たちとの出会いを全身で伝えたい。生徒だけではなく少しでも多くの私に関わった人にこの世界のすばらしさを伝えたいと思った。この経験を得て、一番成長でき、大きな自信となった。



1 早朝にパンを買いに来る地元の方



ゴンサロの家で奥さんと一緒にゲームをした写真



ゴンサロ（左）とイニャキ（右）

に君だからご飯を誘って、もっと話したい
とっていただいた写真



（右下）日本語の先生

（中央女性）クラウディア

（中央上）ホルヘ

（帽子）ガイドの方

（左上）ゴンサロ

みんなでツアーに行き仲良くなった写真